

# 「しりべし一般教養テスト」の作題を通じた地域理解の試み ～テスト理論に基づく地域連携と興味喚起の実践～ プロジェクト代表者:辻 義人

## 1. プロジェクトの目的・概要



### 【ご当地クイズへの注目】

ご当地クイズの効果として、地域に対する理解を深め、興味喚起が期待される。しかし、無計画に作成したクイズ問題では、いわゆる「内輪ネタ」や「自己満足」となってしまう、必ずしも参加者の理解や興味喚起を促進しないことが考えられる。

本取り組みでは、ご当地クイズのあり方について、テスト理論(教育心理学、よりよいテスト問題の作成手法)の枠組みに基づき、いくつかの指標を用いた実践と検証を行う。これを通して、地元の方々に納得していただけるご当地クイズに関する知見が得られることが期待される。

### 【調査スケジュール】

一次調査:小樽に関するご当地クイズ(2016年11月)

二次調査:後志に関するご当地クイズ(2017年3月)

## 2. 具体的な取組内容

2017年3月に「後志ご当地クイズ(15問)」を実施、検証を行った。ご当地クイズの各設問の良否を検討するため、テスト理論(教育心理学)に基づく3つの指標を用いた。指標の意味と、代表的な検証結果について以下に示す。

### 【問題検証の指標】

正答率: その問題が、どの程度簡単だったか。高いほど、易しい問題であった。

弁別指数: 成績上位群と下位群の正答率の差。高いほど、理解度の測定に適した問題である。

IT相関: その問題の成否と総合得点との関係性。高いほど、総合得点と強く関係している。

### 【良好問題(例)】

かつての火山の噴火口に位置し、マスコットキャラクター「あかりん」がPRしている自治体は?

[風連町、黒松内町、赤井川村(○)、赤平市]

→いずれの指標も理想的な値を示した(正答率76.4%、弁別指数36.1、IT相関0.56)

### 【不良問題(例)】

リンゴ栽培が盛んであり、ニッカウキスキーが創業した市町村(当時、大日本果汁株式会社)は?

[仁木町、寿都町、共和町、余市町(○)]

→問題が易しすぎ、テストの役割を果たしていない(正答率98.6%、弁別指数2.8、IT相関0.27)

## 3. プロジェクトの成果及び地域への還元

●地元の方々に愛されるご当地検定について、問題の質や難易度に関する検証が必要。難易度の高い「資格形式」や、興味喚起を促す「クイズ形式」など、目的に合致した問題設計と検証が求められる。

●この結果は、後志総合振興局に報告し、今後の展開(クイズ問題の実施など)に向けた取り組みを実施中。

●今後の課題として、学生にご当地クイズを作成させることで、地域に対する理解深化・興味喚起の可能性を検討する。

